

- 二 成人講座ノ開設 會員ノ研究修養ノ爲ニ隨時講義會ヲ開催ス
 - 三 修養講演會開催 會員及一般公衆ノ爲ニ隨時講演會ヲ開催ス
 - 四 新更學院ヲ設置經營ス
 - 五 郷土史料ノ陳列 史料中文書ニ屬スルモノ又ハ歴史技藝ニ關スルモノヲ努メテ蒐集シ新更會館ニ陳列シテ會員及公衆ノ閱覽ニ供ス
 - 六 雜誌及圖書ノ刊行配布 本會ハ月刊雜誌『新更』及其他ノ圖書ヲ刊行配布ス
 - 七 圖書閱覽及貸出 成田圖書館利用ニ關スル各般ノ施設
 - 八 會館ノ貸與 本會ノ目的ニ適合スル各般ノ集會等ニ本會館ヲ貸與ス
 - 九 其他第一條ノ目的遂行ノ爲ニ必要ナル事業ヲ行フ
- 第四條 本會ノ會員ハ左ノ三種トス
- 正會員 成規ノ手續ヲ經テ入會シタルモノ
- 贊助會員 篤信者ニシテ本會ノ目的ヲ翼賛スルモノ
- 名譽會員 高僧名士ニシテ本會ノ特ニ推薦シタルモノ
- 第五條 本會員タラントスルモノハ會員二名以上ノ紹介ニ依リ理事會ノ承認ヲ要ス
- 第六條 本會ニ左ノ役員及職員ヲ置ク

- 一 會長 一名
 - 一 理事 十名 (内二名ヲ常任理事トス)
 - 一 評議員 若干名
 - 一 顧問 若干名
 - 一 主幹 一名
 - 一 幹事 三名 (内一名ヲ常任幹事トス)
 - 一 書記 若干名
- 第七條 總裁ハ成田山貫首ヲ推戴ス會長理事ハ評議員中ヨリ互選ス
- 評議員及顧問ハ總裁之ヲ依囑ス主幹及幹事ハ總裁之ヲ任命ス
- 第八條 會長及理事ノ任期ハ二ケ年トス
- 第九條 總裁ハ本會ヲ統率シ會長ハ會務一切ノ處理ニ任ス理事ハ會長ヲ補佐シテ會務ヲ分掌ス評議員顧問ハ總裁ノ諮問ニ應ス主幹及幹事ハ總裁及會長ノ命ニ依リ事業ヲ遂行ス
- 第十條 本會ハ毎年一回通常總會ヲ開ク但シ必要ノ場合ハ臨時總會ヲ開クコトアルヘシ通常總會ニ於テハ庶務會計ノ報告ヲナスモノトス
- 第十一條 本會ノ經費ハ寄附金ヲ以テ之ニ充ツ
- 第十二條 本會々員ニシテ本會ノ體面ヲ汚損シ又ハ本會ノ目的ニ違背シタル行爲アリタル時ハ理事會ノ決議ニ依リ除名スルコトアルヘシ

- 第十三條 本會々則ノ改正ハ評議員會ノ決議ヲ經ルヲ要ス
- 第十四條 本會ハ會員二十名以上ニ達シタル地方ニ支部ヲ置ク
- 支部規則ハ本會々則ニ準シテ各支部毎ニ之ヲ定メ支部長及支部幹事ヲシテ支部ノ會務ヲ處理セシム支部長ノ任命ハ總裁之ヲ行フ
- 第十五條 支部長ノ職務權限ハ本會評議員ニ準スヘキモノトス
- 第十六條 年一回以上總裁ノ名ニ於テ全國各支部ノ支部長會議ヲ招集ス但シ必要ニ應シ地方別ニ召集スルコトアルヘシ
- 第十七條 本會ノ本部ヲ千葉縣印旛郡成田町成田山公園内新更會館内ニ置ク

三 役員及び職員

- 總裁 成田山貫首
- 會長 荒木照定
- 理事 (○印常任理事)
- 石川甚兵衛 土井豐 小野寺弘
- 山内平治郎 古矢大助 藤崎公道
- 淺井照次 ○諸岡勝太郎 關川藤右衛門
- 鈴木民治郎

評議員

- | | | |
|-------------|---------|---------|
| 石川甚兵衛 | 岩館熊太郎 | 萩原村次 |
| 土井豐 | 大友惟誠 | 大塚篤三 |
| 大野市太郎 | 大木儀兵衛 | 小野寺弘 |
| 高川直三郎 | 山内平治郎 | 今澤慈海 |
| 古矢大助 | 藤崎公道 | 小泉榮助 |
| 小林治兵衛 | 小島照本 | 大野濱藏 |
| 淺井照次 | 成田善亮 | 秋山照英 |
| 佐藤國二 | 木内喜右衛門 | 三橋金太郎 |
| 宮田半左衛門 | 宮崎廣 | 平山清助 |
| 諸岡勝太郎 | 關川藤右衛門 | 川名照通 |
| 渡邊和一 | 諸岡市郎左衛門 | 大野市平 |
| 鈴木民治郎 | 神崎照惠 | |
| 問 高井觀海 | 兒玉九十 | |
| 幹 澤田五郎 | | |
| 主幹 (○印常任幹事) | | |
| ○神崎照惠 正八位 | 渡邊和一 | 諸岡市郎左衛門 |
| 書記 石橋廣 | 大野政治 | 林幸治郎 |
| 岩本俱之 | 伊藤義雄 | 小川貞雄 |
| 佐伯光盛 | 加勢 胖 | |

四 支部準則

- 第一條 本支部ハ新更會某支部ト稱シ事務所ヲ某所(某小學校内 某町村役場内 又ハ某方)ニ置ク
- 第二條 本支部ハ新更會ノ趣旨ニ依リ皇國傳統ノ健全ナル思想ト鞏固ナル宗教的信念トノ下ニ國民精神ヲ作興スルヲ以テ目的トス
- 第三條 本支部ハ第二條ノ目的ヲ達成スル爲當ニ本部トノ連絡ヲ緊密ニシ會員相互ノ親睦ヲ計リ講演會 講習會 研究會 座談會 其他適當ナル事業ヲ行フ
- 第四條 本支部員ニハ本部發行ノ月刊雜誌「新更」ヲ配布ス
- 第五條 本支部ハ某市町村居住ノ新更會員又ハ支部役員會ニ於テ特ニ推薦シ本部ノ承認ヲ得タルモノヲ以テ組織ス
- 第六條 本支部ニ左ノ役員ヲ置ク
支部長 一名 副支部長 一名 若クハ二名 支部幹事若干名 (内二名若クハ三名ヲ常任幹事トス) 支部顧問若干名 支部評議員若干名
- 第七條 支部長ハ新更會々則第十四條ニヨリ新更會總裁之ヲ委嘱シ本支部ノ事務一切ヲ處理ス
- 第八條 副支部長 支部幹事 支部顧問 支部評議員ハ支部長之ヲ委嘱ス
副支部長ハ支部長ヲ輔佐シ支部長事故アル時ハ之ヲ代理ス
支部幹事ハ支部長ノ指揮ニ依リ支部活動ノ主體トナリ支部ノ會務ヲ分掌ス

支部顧問支部評議員ハ支部長ノ協議ニ參與ス
第九條 本支部役員ノ任期ハ二ケ年トス
但シ重任ヲ妨ケズ

- 第十條 本支部經費ハ本支部員ノ醸出セル部費又ハ篤志者ノ寄附金ニ依リ之ヲ支辨モルモノトス
- 本支部員ハ本支部費トシテ一ケ年五拾錢ヲ納付スルモノトス本支部ハ本支部員ノ納付セル部費中ヨリ一人當リ一ケ年金貳拾錢ヲ本部ニ納付スルモノトス
- 第十一條 本支部員ニシテ吉凶アリタル時ハ支部長ノ名ニ於テ慶弔ノ意ヲ表スルコトアルベシ
- 第十二條 本支部ハ一年一回總會ヲ開キ會務會計ノ報告ヲナシ其ノ承認ヲ得タル後之ヲ本部ニ報告スルモノトス
- 第十三條 本支部員ニシテ本會ノ體面ヲ汚損シ又ハ目的達成ニ違背シタル行爲アリタル時ハ役員會ノ決議ニ依リ本部ノ承認ヲ經タル後除名スルコトアルベシ
- 第十四條 本支部ノ部則變更ハ總會ニ於テ出席會員ノ過半数ノ同意ヲ經タル後本部ノ承認ヲ受クルモノトス
- 第十五條 本則以外ハ本部會則ノ規定ニ準據スルモノトス 以上備考 右ハ昭和十二年一月二十日第七回支部長會議席上ニ於テ決議サレタ支部準則デアリマス

五 支部並びに會員分布狀況

本會支部並びに會員分布狀況は次の通りである。

支部分布一覽

(昭和十三年三月末現在)

支部名	所在地	支部長氏名	支部員數	設立年度
千葉縣印旛郡豊住支部	豊住村龍臺	根本健吉	一五三	昭和五年度
同 久住支部	久住村大室	山倉利雄	一二二	同
同 彌富支部	彌富村飯塚	島田一郎	四八	同
同 船穂支部	船穂村戸神	志津昇治	六九	同
同 中郷支部	中郷村赤萩	寺内静郎	一三四	同
同 根郷支部	根郷村太田	田中三郎	六八	同
茨城縣稻敷郡大須賀支部	大須賀村福田	篠原清吉	四四	同
千葉縣千葉郡更科支部	更科村谷當	高橋甲	九〇	同
茨城縣稻敷郡阿波支部	阿波村四箇	大久保敏夫	四四	昭和六年度
千葉縣印旛郡富里支部	富里村久能	藤崎源之助	三六七	同
同 遠山支部	遠山村大清水	神尾純	一〇四	同
同 八街支部	八街町沖小間子	鈴木市作	一七一	同
同 安食支部	安食町安食	小川團次	五四	同
千葉縣山武郡大平支部	大平村本柏	大木武憲	一一一	同
同 印旛郡成田支部	成田町仲町	木内喜右衛門	四五一	同
同 君津郡飯野支部	飯野村上飯野	山内勘智	一五六	同
同 香取郡本大須賀支部	本大須賀村	長瀧勘由	一六三	同
千葉縣印旛郡川上支部	川上村大谷流	赤池寶之助	七九	昭和七年度
茨城縣稻敷郡浮島支部	浮島村元村	濱田文衛	二一	同

千葉縣山武郡橫芝支部	橫芝町橫芝	堀井武仁	六七	昭和七年度
同 印旛郡八生支部	八生村下福田	堀井孝平	八六	同
同 山武郡松尾支部	松尾町役場	土屋俊三	八六	同
同 印旛郡千代田支部	千代田村物井	神保一美	五一	同
同 山武郡二川支部	二川村殿部田	藤田良男	一三	昭和八年度
茨城縣稻敷郡根本支部	根本村上根本	中島理森	三〇	同
同 藤枝町藤枝支部	藤枝町成田山	足立吉之助	三六	同
千葉縣印旛郡本埜支部	本埜村小學校	岩井伊雄	一四	昭和九年度
同 印旛郡大森支部	大森町大森	小林孟雄	五四	同
同 香取郡大須賀支部	大須賀村奈土	金岡勝郎	一六〇	同
同 印旛郡六合支部	六合村瀬戸	岩井力三	一〇八	昭和十一年度
茨城縣北相馬郡東支間支部	東支間村加納	櫻井忠義	七九	同
千葉縣香取郡橋支部	橋河町西大須賀	岩田正直	一五八	昭和十二年度
同 滑河支部	滑河町西大須賀	櫻井佐直	五二	同
同 印旛郡阿蘇支部	阿蘇村小學校	今井守良	九六	同
同 山武郡南郷支部	南郷村小學校	吉井寛	五七	同
埼玉縣南埼玉郡日勝支部	日勝村	福澤宥眞	一四九	同
千葉縣山武郡蓮沼支部	蓮沼村	鷺澤政賀	一〇二	昭和十三年度
千葉縣山武郡大總支部	大總村	柳橋政二	五〇	同
同 印旛郡公津支部	公津村役場	鈴木勘	八〇	同
合計	三九	三九	四、二一六	

會員分布一覽

昭和十三年三月末現在

(但シ本表ニハ合併ノ結果廢町村トナリタ
ルモノアルモ便宜ノ爲メ舊町村名ヲナリタ)

千葉縣印旛郡	豐住村	一五三	千葉縣印旛郡	布鎌村	五一
同	久住村	一二二	同	宗像村	六
同	彌富村	四八	同	和田村	三四
同	船穂村	六九	同	白井町	一二
同	中郷村	一三四	同	白井村	二七
同	根郷村	六八	同	佐倉町	二
同	富里村	三六七	同	志津村	一
同	八街村	一七一	同	旭井町	二五
同	遠山村	一〇四	同	酒々井町	一六三
同	安食村	五四	同	本大須賀村	一六〇
同	成田町	四五一	同	大須賀村	一五二
同	川上村	七九	同	滑河町	一五八
同	八生村	八六	同	橋門町	二二
同	本埜村	一四三	同	小御門村	三一
同	大森町	一〇八	同	米澤村	二四
同	六合村	九六	同	栗源町	二
同	阿蘇村	五一	同	神崎町	二
同	千代田村	八〇	同	豐里村	三
同	公津村	八〇	同	高岡村	二

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
中川村	東町村	千見川町	白井村	豐富村	蘇我町	都科村	更科村	千葉市	阿波村	根本村	大須賀村	浮島村	二	四	三	四	三	一	一	二	一	二
三	一	三	二	一	〇	九	二	〇	四	三	三	四	一	〇	三	二	四	二	二	一	三	三
茨城縣北相馬郡東文間村	靜岡縣志太郡藤枝町	埼玉縣南埼玉郡日勝村	他府縣	小計	其他特殊會員	一、新勝寺事業關係會員	二、特別會員(全日本)	三、縣下男子青年團長	四、縣下女子青年團長	五、新更學院卒業生並ニ在學生	小計	合	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
七九	三六	三四	四五	四九	一五	一八	四五	三三	三三	三五	二五	一五	六、五三三	六、五三三	六、五三三	六、五三三	六、五三三	六、五三三	六、五三三	六、五三三	六、五三三	六、五三三

六 設備

敷地坪數 一、八〇〇坪
 建物坪數 五七六坪

會館(木造二階建) 二四七・五坪
 (舊千葉縣物產陳列館建物を改造したもの)
 階上は講堂・講座・講習會に使用
 階下は郷土資料陳列場並びに新更學院教室
 弘誓寮(木造二階建) 三二八・五坪

此の建物にて合宿講習會・特殊講習會・研究會其の他の行事を行つてゐる。各室内譯左の如し。

階上 靜觀室四十九疊半・會議室(洋間)二十四坪・同(日本間)二十九疊・總裁室十七疊半・應接室(九坪)
 講師室(十二疊半)・宿直室(八疊)・圖書室(四坪)・醫務室(十四疊)
 階下 合宿室三(六十六疊半)・食堂(三十八疊半)・事務室(十九坪二五)・炊事室(十二坪)・小使室(十一疊)・洗面所(八坪)・浴室(六坪)

第參 施設

一 郷土資料陳列

郷土資料陳列場は本館階下の大部分を占めてゐる。此處には成田山關係古文書・記録・繪馬・書畫・刀劍・面・並びに成田町及び縣内郷土資料等凡そ數百點を陳列して、無料一般

の觀覽に供してゐる。

二 夏季大學講座

本會の精神に則り、所謂皇國傳統の健全なる思想と、鞏固なる宗教的信仰を發揮し、國民精神を涵養するの目的を以て年々該講座を開催して來たが、本年度分は次の通りである。

會名	月日	場所	聽講者	講師	講座
第九回新更 夏期大學講座	昭和十二年 自八月三日 至同月七日	新更會館	一、二〇二	入澤宗壽 井野邊茂雄 諸橋徹次 宇野圓空 松井謙吉 皆川治廣 田邊尙雄 安達久 鹿子木員信	我が國教育の本義 明治維新と國體擁護 日本精神と儒教 宗教的情操と佛教の理念 國體の涵養と農業教育 思想問題に就いて 日本文化と音樂舞踊 ソヴエツト聯邦の社會實情 皇國々體原理

三 講習會

第一條の的達成のために、寮規に基きて精神的訓練を主と

する定期、一夜の合宿講習會及び、農村文化啓發を主とする實務的講習會を左の通り開催した。

成人教育講習會

會名	第七回女子青年講習會
月日	昭和十二年 自十一月二十日 至同二十三日
場所	新更會館
聽衆	一、三六九
講師	澤山伊永 山口藤野 五直正 平人郎 健十昇 實
講座	支那事變と女性の覺悟 時局を正しく觀して 非常時の家庭經濟 罐詰の知識と實際 家庭の教育と女子の 知識の青年の覺悟 婦人としての防空知識 と防空の知識の一般並 易防毒具

定期合宿講習會

會名	第十七回成人教育合宿講習會 第三回女子青年合宿講習會
月日	昭和十二年自八月三日 至同十一月廿三日
場所	弘誓寮
合宿員	四五名 一〇一名

一夜合宿講習會

種別	月別	
	月一	月二
男子青年	2	79
回数	1	60
員人	60	60
月三	月四	月五
回数	回数	回数
員人	員人	員人
月六	月七	月八
回数	回数	回数
員人	員人	員人
月九	月十	月十一
回数	回数	回数
員人	員人	員人
月十二	計	
回数	2	92
員人	92	92
計	5	231
員人	231	231

特殊講習會

計	女子青年	特殊者	指導員	學校生徒 (女子青年學校)	學校生徒 (男子青年學校)	男子壯年
3	1		1		1	
170	60		50		60	
7	1				3	1
375	59				183	54
6		1		1	3	
256		30		46	120	
1					1	
64					64	
1					1	
50			1		50	
2					1	
102			53		49	
4		2	1		1	
265		105	90		70	
2					2	
88					88	
1					1	
59					59	
1					1	
68					68	
1			1			
90			90			
3					1	
182					90	
32	2	3	4	1	16	1
1769	119	135	283	46	901	54

會名	回数	人員	會名	回数	人員
染色講習會	一	八五	炭燒同	同	三九〇
漬物同	同	一〇六	料理同	同	六六〇
洗張同	同	七九	計	八四	

四研究會

講習以外左記各種の研究談話會を開催し、以て斯道の向上＝發展に資した。

會名	期日	場所	參加者
巡回文庫研究會	隨時	本部又ハ支部	會員三〇併旬會
	每月廿五日	弘誓寮	會員五〇

短歌會	每月末日	同	會員 三〇	詩 會	隨	時	本部又ハ支部	會員 三〇
詩會	每月一回	同	會員 二〇	吟 會	隨	時	弘 誓 寮	會員 三〇
小品文會	每週火曜日	同	會員 二〇					

五 講 演 會

本會は規約第一條に則りて、本會の趣旨を普及徹底せしめ、地方文化を促進擴充する爲に、本部並びに支部に於て左の通り講演會を開催した。

會 名	期 日	場 所	聽 衆	講 師	演 題
支部出張講演會	昭和十二年四月三日	内郷準支部	一六〇	永野健	農家經營に就いて
同	四月五日	飯野支部	一八〇	那須政隆	人生と宗教
支部設立準備講演會	四月五日	君津龜山村	三五〇	井上一次	國際情勢と日本の決意
支部出張講演會	四月十一日	豊住支部	四〇〇	井上一次	非常時局と更生
同	四月十八日	中郷支部	三〇〇	高神覺昇	現代生活と佛教
本部講演會	五月八日	新更會	五〇〇	田邊尙雄	現代日本に於ける生活と音楽
同	五月二十六日	同	六〇〇	小山田仲之丞	帝國海軍の現状を見て日露海戰當時を偲ぶ
支部出張講演會	七月二十日	八生支部	七〇〇	加藤豊三郎	日本の情勢に對する我等の覺悟
同	七月二十四日	滑河支部	四二〇	安達本謙	人間の價値
同	七月二十五日	根郷支部	三五〇	飯田喜好	國土防衛と北支事變に就いて
同	七月二十七日	香取大須賀支部	九〇〇	飯田喜好	國土防衛と北支事變に就いて
同	八月十二日	松尾支部	五〇〇	吉彦	北支事變と國民の覺悟

會 名	期 日	場 所	聽 衆	講 師	演 題
同	八月十六日	更科支部	六〇〇	堀吉彦	北支事變と國民の覺悟
同	八月十六日	阿蘇支部	五〇〇	兒玉九十	北支事變と國民の決意
同	八月二十二日	橋支支部	二〇〇	堀吉彦	北支事變と國民の覺悟
同	八月二十二日	大平支部	六〇〇	陸軍歩兵少佐 飯田喜好	日支事變と國民の決意
同	八月二十八日	大須賀支部	七〇〇	兒玉九十	北支事變と經濟外交
同	八月二十九日	富里支部	八〇〇	陸軍少將 矢野機	北支事變に就いて
支部設立準備講演會	九月三日	南郷村	二〇〇	陸軍少將 堀吉彦	北支事變と國民の覺悟
本部出張講演會	九月九日	新更會	四〇〇	吉植庄亮	戰時體制下に於ける國民の覺悟
支部設立準備講演會	九月二十二日	二川支部	二〇〇	服部眞彦	支那事變と國民の覺悟
本部出張講演會	九月二十三日	大總村	六〇〇	服部眞彦	支那事變と國民の覺悟
支部出張講演會	九月二十七日	新更會	五〇〇	安西宥昌	非常時局と宗教
同	十月一日	富里支部	九〇〇	陸軍中將 堀内文次郎	日支戰爭について
同	十月九日	彌富支部	七〇〇	陸軍少將 勝尾信彦	支那事變を巡る極東諸情勢
同	十月十六日	六合支部	三〇〇	陸軍中將 堀内文次郎	日支戰爭と國民の決意
同	十月十八日	船穂支部	六〇〇	陸軍少將 堀吉彦	支那事變と國際情勢
同	十月二十日	横芝支部	五〇〇	陸軍中將 堀内文次郎	日支戰爭と國民の決意
同	十月二十六日	久住支部	九〇〇	陸軍中將 堀内文次郎	日支戰爭と國民の決意
同	十月二十八日	本榎支部	二〇〇	陸軍中將 堀内文次郎	日支戰爭と國民の決意
同	十月二十九日	本大須賀支部	三〇〇	陸軍中將 堀内文次郎	日支戰爭と國民の決意
同	十一月四日	南郷支部	三〇〇	陸軍中將 堀内文次郎	支那事變と極東諸情勢
同	十一月五日	豊住支部	九〇〇	陸軍少將 堀吉彦	支那事變と極東諸情勢
本部出張講演會	十一月七日	新更會	六〇〇	海軍中佐 梅崎卯之助	海軍の荒鷲と上海戰線視察談

支部出張講演會	十一月十六日	八生支部	一、一〇〇	陸軍中將	堀内文次郎	日支戰爭と國民の覺悟
本部講演會	十一月十七日	新更會	八〇〇	陸軍少將	小泉又次郎	北支戰線視察談
支部出張講演會	十一月二十四日	阿蘇支部	一、〇〇〇	陸軍中將	堀内文次郎	日支戰爭と國民の覺悟
同	十一月二十七日	茨城大須賀支部	七〇〇	陸軍中將	堀内文次郎	日支戰爭と國民の覺悟
同	十一月二十八日	安食支部	二、〇〇〇	陸軍中將	堀内文次郎	日支戰爭と國民の覺悟
同	十一月二十八日	川上支部	八〇〇	陸軍少將	矢野	支那事變と國際情勢
同	十二月五日	運沼支部	九〇〇	陸軍中將	堀内文次郎	支那事變と國際情勢
同	十二月六日	根郷支部	八〇〇	陸軍少將	堀内文次郎	支那事變と國際情勢
同	十二月十五日	日勝支部	六〇〇	陸軍少將	堀内文次郎	支那事變と國際情勢
同	十二月十七日	大平支部	七〇〇	陸軍中將	服部眞彦	支那事變と國際情勢
同	十二月二十六日	二川支部	三〇〇	陸軍少將	堀内文次郎	支那事變と國際情勢
同	昭和十三年 昭和三十六年 昭和三十七年	滑河支部	五〇〇	陸軍少將	堀内文次郎	支那事變と國際情勢
同	昭和三十七年	八街支部	四〇〇	陸軍少將	堀内文次郎	支那事變と國際情勢
同	一月七日	千代田支部	四〇〇	陸軍少將	堀内文次郎	支那事變と國際情勢
同	一月七日	富里支部	六〇〇	海軍大佐	梅崎卯之助	支那事變と國際情勢
同	一月八日	蓮沼支部	六〇〇	陸軍少將	堀内文次郎	支那事變と國際情勢
同	一月十三日	遠山支部	三〇〇	陸軍少將	堀内文次郎	支那事變と國際情勢
同	一月十五日	東文間支部	七〇〇	陸軍中將	服部眞彦	支那事變と國際情勢
同	一月十六日	船穂支部	六〇〇	陸軍中將	永野健彦	支那事變と國際情勢
同	一月十六日	橋支支部	一、〇〇〇	陸軍中將	堀内文次郎	支那事變と國際情勢
同	一月二十三日	大森支部	一、〇〇〇	陸軍少將	堀内文次郎	支那事變と國際情勢
同	一月三十一日	松尾支部	五〇〇	海軍大佐	古田中博	支那事變と國際情勢

六展覽會

昭和十三年三月末日迄

計七十一回

本部講演會	一月三十一日	新更會	一五〇	陸軍少將	松本翠影	南京上海戰線視察談
支部出張講演會	二月七日	根本支部	七〇〇	陸軍少將	堀内文次郎	支那事變と國際情勢
同	二月十二日	富里支部	五〇〇	陸軍少將	堀内文次郎	支那事變と國際情勢
同	二月十三日	大總支部	八〇〇	陸軍少將	堀内文次郎	支那事變と國際情勢
支部出張講演會	二月十四日	木更津町	六〇〇	陸軍少將	堀内文次郎	支那事變と國際情勢
支部出張講演會	二月十五日	飯野支部	八五〇	陸軍少將	堀内文次郎	支那事變と國際情勢
支部出張講演會	二月十七日	君津郡中郷村	六〇〇	陸軍少將	堀内文次郎	支那事變と國際情勢
同	二月十八日	富津町	五〇〇	陸軍少將	堀内文次郎	支那事變と國際情勢
支部出張講演會	二月二十日	蓮沼支部	六〇〇	陸軍少將	堀内文次郎	支那事變と國際情勢
同	二月二十七日	公津支部	三〇〇	海軍大佐	古田中博	支那事變と國際情勢
同	三月六日	八街支部	二〇〇	海軍大佐	古田中博	支那事變と國際情勢
同	三月六日	富里支部	八〇〇	海軍大佐	古田中博	支那事變と國際情勢
支部出張講演會	三月六日	山武千代田村	三〇〇	海軍大佐	古田中博	支那事變と國際情勢
支部出張講演會	三月十日	成田小學校	八〇〇	海軍大佐	古田中博	支那事變と國際情勢
支部出張講演會	三月二十五日	豐住支部	五五〇	海軍大佐	古田中博	支那事變と國際情勢

會名	第四回新更書道展覽會
會期	自七月一日至七月十日
主催	本會
場所	本會館
出品點數	二、一〇七
入選點數	六五二
特選數	二九
審査員	田代秋喜、淺見喜秋、田見喜秋、杉澤喜秋、鶴舟鶴

備考 外に年々童畫展覽會を開催して來たが本年は支那事變の爲め中止す

七 映 畫 會

會 名	期 日	主 催	場 所	人 員
出征軍人慰問精神強調教育映畫會	昭和十二年十月三十一日	本 會	本 會 館	五〇〇名
國家民族精神強調教育映畫會	十一月十五日	千 葉 縣 本 會 館		八〇〇名

八 各 種 刊 行 物

以上の施設以外本會に於ては、印刷物に依る社會教育を目

的として、機關雜誌並びに修養圖書の編纂・各種パンフレット・リーフレット等の刊行をなし、偏く之を一般に頒布して民心の作興に努めた。本年度刊行のもの左の通り。

書 名	著 者	名 部	發 行 日	部 數	備 考
新 更 (月 刊) (成田山開基二千年奉講) 新 更 特 別 號 (第四輯) 新 更 論 集 (第一卷) 皇 國 々 體 原 理 我 が 國 教 育 の 本 義 明 治 維 新 と 國 體 擁 護 日 本 精 神 と 儒 教	新 更 會 刊 行 部 同 同 同 同 九州帝大教授 文 大 教 授 文 大 教 授 文 大 教 授 東京文理大教授 東京文理大教授	七、〇〇〇 一、〇〇〇 四〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇	每月十日 昭和十三年三月十五日 昭和十三年二月二十六日 同 同 同 同	會員指導機關誌 日本佛敎の研究 第九回夏季大學講演集 菊版 菊版 菊版 菊版 菊版 菊版	三二頁 四四頁 五九頁 六八頁 三八頁 三二頁 六二頁 二四頁 二四頁 六二頁 五〇頁

書 名	著 者	名 部	發 行 日	部 數	備 考
宗教的情操と佛敎の理念 國本の涵養と農業教育 思想問題に就いて 日本文化と音楽舞踊 ソヴェット聯邦の社會の實情 一千年成田山縁起物語 大阪御本尊奉送次第 我等の歌 行 持 要 綱 新 更 學 院 同 窓 會 會 報 新 更 會 一 覽	東 大 助 教 授 宇 野 圓 空 千 葉 高 等 園 藝 學 校 長 松 井 謙 吉 東 京 控 訴 院 博 士 皆 川 治 廣 國 立 大 學 講 師 田 邊 尚 雄 東 京 帝 大 講 師 安 達 久 陸 軍 省 新 開 班 員 少 佐 安 達 久 陸 軍 省 新 開 班 員 少 佐 安 達 久	二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 三〇〇 三〇〇 五〇〇 三〇〇 三〇〇 一、〇〇〇	昭和二十三年二月二十六日 同 同 同 同 昭和十三年三月五日 昭和十三年二月二十六日 昭和十二年十一月五日 昭和十二年十一月五日 昭和十二年十一月五日 昭和十二年十一月五日 昭和十二年十一月五日 昭和十二年十一月五日	菊版 菊版 菊版 菊版 菊版 菊版 菊版 菊版 菊版 菊版 菊版	三二頁 四四頁 五九頁 六八頁 三八頁 三二頁 六二頁 二四頁 二四頁 六二頁 五〇頁

九 巡 回 文 庫

支部青年團員の讀書獎勵として、本年度實施の巡回文庫狀況左の如し。

一、甲 班 自 第一號 至 第六號 三三〇冊 本年度成田圖書館より借用分

新 更 會

二、乙 班 自 第一號 至 第六號 三三七冊 本年度購入分

三、丙 班 自 第一號 至 第六號 三一八冊 本部巡回文庫專用書

四、特別班 自 第一號 至 第四號 三三〇冊 臨時購入分

一、二〇五冊

各 班 內 容

班 別	號 類	修養方面		產業方面		傳記類		地 歷 科		大衆雜誌		雜 書	合 計
		宗 教	修 身	農 業	其 他	傳 記	時 局	地 理	歷 史	小 說	隨 筆		
甲 班	第 一 號	七	五	五	八	八	六	三	七	四	五	三	五
	第 二 號	五	三	六	七	五	四	五	五	五	六	三	五
	第 三 號	六	四	七	八	六	五	四	六	五	四	三	五
	第 四 號	三	五	八	九	七	六	五	三	五	四	三	五
	第 五 號	五	六	九	八	八	七	五	五	五	四	三	五
乙 班	第 一 號	六	五	六	七	五	四	五	六	五	四	三	五
	第 二 號	五	六	七	八	六	五	四	五	四	三	二	五
	第 三 號	六	五	六	七	八	九	八	六	五	四	三	五
	第 四 號	五	四	五	六	七	八	五	四	五	四	三	五
	第 五 號	六	五	六	七	八	九	八	六	五	四	三	五
丙 班	第 一 號	三	四	四	三	五	四	三	六	五	四	三	五
	第 二 號	四	五	三	四	五	六	五	四	三	二	一	五
	第 三 號	五	四	四	五	三	四	五	六	五	四	三	五
	第 四 號	六	五	七	八	六	七	八	九	八	七	六	五
	第 五 號	七	六	五	四	三	二	一	五	四	三	二	五

利 用 支 部 成 績

特 別 班	合 計
第 一 號	二 十 二 號
第 二 號	一 〇 五
第 三 號	一 一 〇
第 四 號	一 一 〇
第 五 號	一 六 二
	一 一 七
	一 一 二
	一 〇 八
	一 一 一
	一 一 二
	一 〇 四
	九 二
	七 二
	一、二〇五

利用支部名	支部員	回数	箱數	閱覽人員	閱覽冊數	利用支部名	支部員	回数	箱數	閱覽人員	閱覽冊數
印旛郡根郷支部	六八	三	四	一三〇	一六九	印旛郡豊住支部	一五三	二	二	二一五	二二九
山武郡太平支部	一一一	一	一	一六五	二九五	同 阿蘇支部	九六	一	二	一二五	一五六
印旛郡中郷支部	一三四	三	六	六九三	一、四七八	埼玉縣日勝支部	一四九	一	二	二二三	二四九
香取郡大須賀支部	一六〇	一	二	二五七	五〇四	山武郡南郷支部	五七	一	一	九〇	一〇〇
同本大須賀支部	一六三	一	一	一〇五	一四六	同 松尾支部	八六	一	一	一〇〇	一二四
印旛郡富里支部	三六七	一	二	五二三	七五七	同 蓮沼支部	一〇二	一	一	一〇九	一三五
香取郡橘支部	一五八	一	二	二一八	二二〇	合計	一三	一	一	九六三	六六二

一〇 時局對應施設

時局對應の施設として實施せる事項を摘出すれば、次の通りである。

一 出征軍人家族慰問

千葉縣下支部所在地 印旛・香取・山武・千葉・君津の五郡

茨城縣下支部所在地 稻敷・北相馬の二郡

國民精神總動員講演會

千葉・茨城・埼玉三縣下三十九支部六十餘回

- 一 國民精神總動員講演 聽講 十二回 新更學院職員生徒 成田山開基一千年祭主催(本會館樓上にて開催)
- 一 時局映畫大會(出征軍人家族慰安ニユース映畫)
- 一 國民精神總動員強調教育映畫大會
- 一 陸軍病院慰問文庫回付
- 一 佐倉・習志野・國府臺・千葉・下志津の五病院へ 傷病兵接待
- 一 不動尊・埴生神社へ戰勝祈願
- 一 香取神社へ戰勝祈願のため新更學院職員・生徒徒歩強行 出征將兵慰問 栗の必勝煮献納
- 一 武運長久祈願旅行 明治神宮・靖國神社其他へ
- 一 佐倉陸軍病院傷病兵慰問 新更學院職員生徒 出征將兵歡送迎
- 一 戰死者町葬參列燒香
- 一 其他 省略

尙ほ陸軍慰問文庫回付・支部員出征者家族慰問並びに傷病兵接待に關する事項を略記すれば、次の通りである。

陸軍慰問文庫回付

昭和十二年七月以來支那事變のため、北支・中南支の戰鬪に参加し、名譽の戰傷を負ひて内地に歸還療養せらるゝ勇士に對し、慰安を目的として慰問文庫發送を計劃し、昭和十三

年二月より之が配布を實施した。其の配布先並びに冊數は左の如し。

佐倉陸軍病院	一〇個	六八一冊
千葉陸軍病院	五個	三七七冊
國府臺陸軍病院	一個	六一冊
習志野陸軍病院	二個	八九冊
下志津陸軍病院	一個	五四冊
計	一九個	一、二六二冊

支部員出征者家族慰問

本會支部員出征者家族に對しては、成田山身代り御札並びに慰問品を携へ、左の通り慰問を行つた。

第壹回 昭和十二年八月二十六日より十月五日まで百九十五戸慰問

第貳回 同年十二月三日より十二月二十七日まで百十戸慰問

尙ほ戰傷者には、見舞金を贈り、戰死者に對しては、其の葬儀に參列し、香料・花環・弔辭を捧げて弔意を表した。

傷病兵接待

昭和十二年九月・十月・十一月の三回、成田山に參拜せられた佐倉・千葉・下志津病院に於ける白衣の勇士(延人員五百名)に對し、本會にては、成田町愛國婦人會分會、國防婦人會分會と協力し、本會館に於て之が接待慰安をなした。

一一 新更學院

目的

本學院は日本國民としての徳性を涵養し、地方有爲の人材を養成するを目的としてゐる。

教育方針

本學院は教育勅語の御趣旨を奉戴して、之が實踐に努めしむるは勿論、更に新更會の精神に鑑みて獨立獨行、敢然として正道に邁進し、國家社會に奉仕的なる堅實の青年を養成するを根本の方針とし、特に敬神崇祖の宗教的信念を培養する爲め、毎朝靜觀・御製奉誦を行はせてゐる。

沿革

本學院は新更會事業の一部であつて、昭和六年六月六日創立。當時は入學資格を滿十四歳以上、修業年限を二ケ年と定めた。

昭和八年四月第一回卒業生を出す。

昭和八年四月入學資格を高等小學校卒業以上とし、修業年限を一ケ年と定めた。

昭和八年十二月十九日千葉縣知事より設立の件認可。

昭和九年四月第二回卒業生を出す。

昭和十年四月第三回卒業生を出す。

昭和十年十二月三日文部・陸軍兩省より、青年學校と同等以上の認定を受く。

昭和十一年四月第四回卒業生を出す。

昭和十二年四月第五回卒業生を出す。

昭和十三年四月第六回卒業生を出す。

新更學院學則

第一章 總 則

- 第一條 本學院ハ新更會ノ趣旨ニ基キ短期間ニ日本國民トシテノ徳性ヲ涵養シ兼ネテ中等程度ノ諸學科ヲ教授スルヲ目的トス
- 第二條 生徒定員ハ五十名トシ修業年限ヲ一ケ年トス
- 第三條 學年ヲ三學期ニ分ツ
- 第一學期 四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル
- 第二學期 九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル
- 第三學期 一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル
- 第二章 學科課程 每週教授時間及休日
- 第四條 學科課程及授業時數左ノ如シ

學科	時數	課 程
修 身	一	國民道德一般要旨・作法
公 民	一	法制上・經濟上・社會上ノ一般要旨
佛 教	一	佛典講讀
國 語	五	國文講讀・作文・文法
習 字	一	楷・行・草書ノ三體
漢 文	四	漢文講讀
英 語	三	讀方・解釋
數 學	四	算術・代數・幾何
歷 史	三	日本・外國歷史
地 理	二	日本・外國地理
音 樂	一	單音唱歌・樂典ノ大要
珠 算	一	加減乘除
簿 記	一	
農 業	一	學科及實習
商 業	一	商業大意
教 練・體操・劍道	六	學校教練

第五條 休日ハ左ノ如シ
 祝日祭日 日曜日 節分 成田山祇園祭當日
 春季休業 四月一日ヨリ 四月七日ニ至ル

夏季休業 八月一日ヨリ 八月三十一日ニ至ル
 冬季休業 十二月二十六日ヨリ 一月七日ニ至ル

第三章 入學、退學、授業料、罰則

第六條 本學院ニ入學シ得ベキ者ハ高等小學校卒業ノモノ又ハコレト同等以上ノ學力アリト認メラレタルモノニシテ滿十四才以上ノモノタルベシ

第七條 入學志願者ハ本學院所定ノ入學願書ニ戶籍謄本ヲ添ヘテ差出スベシ

第八條 入學志願者ハ小學校長ノ内申ニ基キテ試問及體格檢査ニ依リテ之ヲ檢定ス

第九條 入學許可ヲ得タルモノハ在學證書ヲ差出スベシ保證人ハ父兄親戚ノ一家計ヲ立ツル者又ハ身許引受人ニ限リ當該生徒在學中ニ係ル一切ノ事項ニツキ其責ニ任ズベキモノトス

第十條 退學セントスル者ハ保證人連署ヲ以テ出願スベシ

第十一條 授業料ハ毎月一圓トス但シ八月ハ之ヲ徵收セズ

第十二條 左ノ各項ノ一ニ該當スルモノハ除籍ス

一、性行不良ニシテ改善ノ見込ミナシト認メタル者

二、引續キ一學期以上缺席シタル者

三、正當ナル理由ナク引續キ一ヶ月以上缺席シタル者

四、出席常ナラザル者

第十三條 生徒ニシテ規則命令ニ違反シ學院内ノ風紀ヲ害シ

又ハ生徒ノ本分ニ背キタル者ハ其輕重ニヨリ左ノ懲戒ヲ加フ

謹責、謹慎、停學、退學

第十四條 試驗評點ハ凡テ一科目一百點ヲ以テ滿點トス

第十五條 平均點六十點以上ヲ得タル者ヲ合格トシ卒業證書ヲ授與ス

第五章 制 服

第十六條 生徒登校ノ時ハ必ず制服制帽ヲ用フベシ

第十七條 制服ハ千葉縣青年學校生徒制定服ニ準ズ

第十八條 制帽ハ千葉縣青年學校生徒制定ノ帽子ニ準ジ本學院ノ徽章ヲ附スベシ

第十九條 穿物ハゴム底、厚底足袋又ハ脚絆又ハ卷脚絆ヲ用フベシ

第二十條 制服ヲ汚損シタルモノ又ハ身體上ノ故障ニヨリ着用不能ナルモノハ許可ヲ得テ代用服ヲ着用スルコトヲ得

第二十一條 代用服ハ筒袖ニシテ袴ヲ着用スベシ

行 事

本學院生徒ハ趣旨徹底の爲め、毎月一回以上合宿講習を行つた外、左記學歴による行事を行つた。

- 五月 五日 入學願書ノ切
- 六日 入學考査並體格檢査
- 七日 入學合格者發表
- 九日 卒業生一夜講習會
- 十日 卒業式・入學式
- 二十七日 靖國神社臨時大祭ニ付遙拜式ヲ行フ
- 二十九日 天長節拜賀式
- 五月 十四日 第五回同窓會
- 二十七日 海軍記念日訓話
- 三十一日 一夜講習・遠足會
- 六月 六日 學院創立記念式舉行
- 八日 遠足會
- 十日 時の記念日訓話
- 七月 十日 第一學期考査開始
- 三十一日 第一學期終業式及成績發表
- 八月 八日 生徒登校日・宿題點檢・健康狀態調査
- 中旬 武道會中稽古
- 二十五日 生徒登校日
- 九月 一日 關東大震災追憶會・始業式

十八日 身體検査
 三十日 暑中休暇中作品展覽會
 十月
 十一日 遠 足
 十八日 報徳強調週間
 十九日 香取神宮マデ強行軍
 二十七日 栗キントン、栗必勝煮ノ罐詰ヲ作製シ、郷土部隊へ慰問品トシテ發送
 三十日 教育勅語御下賜記念日講話
 十一月
 三日 明治節拜賀式
 五日 宮城・明治神宮參拜(國威宣揚皇軍健勝祈願)
 十日 精神作興詔書換發記念日講話
 二十九日 教練査閲
 十二月

二月 二日 父兄會開催
 十日 第二學期考査開始
 二十四日 第二學期始業式・成績發表
 一月 一日 新年拜賀式
 八日 第三學期始業式・不動尊參拜
 三十日 成田山事業關係見學
 二月 三日 節分會ニ付成田山へ奉仕
 五日 一夜講習會
 十一日 成田町建國祭行事ニ參加
 二十五日 腸チブス豫防注射施行
 三月 八日 學年試驗開始・操行會議
 十日 學年試驗終了

受持學科	職 名	姓 名	原 籍	就 職 年 月 日
修身・公民	院長	荒 照 定	千葉縣	昭和六年六月六日
修身・佛教	主任幹事兼教師	澤 五 郎	千葉縣	同
農業・教練	幹事兼教師	神 照 惠	千葉縣	同
		波 邊 和 一	千葉縣	昭和七年四月一日

商 習 國 數 英 語 漢 文 理 科 國 語 學	業 字 語 史 理 道 武 道 武 道	幹 事 兼 教 師	諸 岡 市 郎 左 衛 門	石 橋 野 政 治	大 野 幸 次 郎	林 本 義 之 郎	岩 藤 義 雄	伊 藤 義 雄	小 川 貞 雄	佐 伯 光 盛	加 瀬 胖
業 師	師	師	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣
昭和七年四月一日	昭和六年六月六日	昭和七年四月一日	昭和七年十月一日	昭和七年十月一日	昭和十年九月十一日	昭和十年九月十一日	昭和十年九月十一日	昭和十年九月十一日	昭和十一年五月五日	昭和十一年五月五日	昭和十三年三月五日

年度別卒業生並びに在學生數

第一回卒業生	第二回卒業生	第三回卒業生	第四回卒業生	第五回卒業生	第六回卒業生	第七回卒業生	在學學生
昭 和 六 年	昭 和 七 年	昭 和 八 年	昭 和 九 年	昭 和 十 年	昭 和 十 一 年	昭 和 十 二 年	昭 和 十 三 年
七	一九	二七	二五	三八	四三	四七	四七

本年度卒業生氏名

氏 名	住 所	卒業後ノ狀況
岩 澤 洪	山武郡二川村高田六〇一	農 業
大 木 幸 三 郎	印旛郡中郷村青田一五七九	實 業
檜 垣 悟 朗	同 久住村幡谷三二三	農 業
日 暮 俊 夫	同 中郷村下金山五二五	同
北 村 勝 男	同 富里村久能二九四	同
木 村 宗 次	同 富里村七榮三二三	同
土 屋 武 次	同 山武郡千代田村大里一四〇二	陸軍々屬
石 原 正 文	同 印旛郡成田町土屋一三二四	同
綿 貫 一 男	同 富里村新橋九二	同
柏 木 義 男	同 成田町東町二五三	實 業

紺谷博	印旛郡成田町成田四八一	實業
大野清	同 安食町安食三五四九	同 業
吉岡富夫	山武郡二川村大臺二二六	同 業
池田孝司	印旛郡成田町成田八二一	鐵道
大木貞二	成田町郷部三〇一	同 業
鈴木精三	成田町成田五〇一	同 業
鈴木弘	布織村押付四七	同 業
大澤欽也	本塾村物木五三三	同 業
石井良俊	安食町安食三五五五	同 業
相川博	富里村中澤八五〇	同 業
相名正	香取郡小御門村七澤一四九一	同 業
相川明義	印旛郡富里村新中澤二二六	同 業
萩原則	山武郡二川村小池二四六五	同 業
川島茂雄	印旛郡布織村會根一〇	同 業
菱木正雄	山武郡二川村大臺二二六	同 業
小林近義	印旛郡成田町成田五一九	同 業
下境清一	同 富里村七榮三二四	同 業
福田喜一	酒々井村上岩橋一二二	同 業
根本正治	久住村荒海七九五	同 業
篠田一	豊住村長沼五三四	同 業
春山充	同 安食町安食三六二二	同 業
宮野稔	山武郡千代田村菱田一一六五	同 業
富彌文	印旛郡川上村根古谷六六五	同 業
一銀田守	同 中郷村菅田八三三	同 業

生駒一郎	山武郡二川村高田五五四	農業
長澤良助	印旛郡布織村三和三〇四	同 業
堀越忠治	山武郡二川村高田八〇一	同 業
大木喜代治	印旛郡中郷村一〇一三	同 業
清宮長造	同 佐倉町岩名六二四	同 業
山室靜	山武郡千代田村菱田一二〇	同 業
山口寅治	印旛郡成田町成田五六七	同 業
多田滿	同 中郷村新妻一三五	同 業
石原明	同 成田町土屋一三九八	同 業
鈴木清	山武郡千代田村菱田六五	同 業
山田新一	印旛郡豊住村長沼八三三	同 業
岩井亥	同 木下町一六四六	同 業
篠吉郎	山武郡二川村大臺七四八	同 業
以上	四十七名	同 業

生徒氏名 (昭和十三年六月末現在)

氏名	住	所
杉田博	印旛郡安食町須賀新田	
石塚隆一	同 豊住村北羽鳥二二四	
岩井榮次	同 本塾村笠神七一〇	
山田博	同 八生村山口一一八〇	
浮島勝雄	同 安食町須賀九三二	
伊藤高明	同 遠山村小菅二八一	

齋藤次男	印旛郡安食三六九六	
戸村勝	山武郡二川村殿部田三九五	
大木繁伸	印旛郡中郷村菅田八三五	
淺井章	香取郡本大須賀村松子六〇一	
佐久間正中	山武郡千代田村大里一七九三	
岩澤眞	同 二川村小池二〇七九	
相川剛一	印旛郡富里村立澤七一	
大島茂夫	山武郡二川村小池八九〇	
長澤豊	印旛郡根郷村六崎六七四	
大須賀清一	同 安食町須賀五二〇	
白井正夫	同 富里村七榮一一七	
齋藤亘弘	山武郡千代田村大里七五	
萩原清	同 千代田村大里五四六	
岩館好三	印旛郡遠山村ノ作五三	
青柳正平	同 酒々井町伊篠五四三	
行方剛	山武郡二川村大臺一八三九	
伊達五郎	印旛郡中郷村新妻七七四	
山崎登	同 八街町は一二	
△久保庭修夫	成田町郷部二一七	
市原清	同 根郷村寺崎二六四八	
岩館金男	同 久住村荒海四四三	
戸村攝三	同 遠山村駒井野	
石井榮祐	同 酒々井町上岩橋八二七	
飯高正男	同 久住村大室七七二	

小川義夫	山武郡千代田村岩山二〇九四内二ノ二
新橋英一	印旛郡豊住村北羽鳥一二六五
加藤薫	同 中郷村下金山五二四
芳澤繁夫	同 布織村請方一一二
小川小三郎	山武郡千代田村岩山一七四五
石原順	印旛郡成田町土屋一三九四
平山成祐	香取郡多古町林六六三
石橋輝四	印旛郡中郷村下金山五二七
齋藤舜治	同 遠山村東和田二九一
寺内靖治	同 中郷村赤萩一一三四
眞行寺一朗	山武郡二川村小池二〇七四
大木保	印旛郡遠山村小菅八九六
瀬利吉郎	香取郡多古町林五二二
伊橋利春	山武郡千代田村岩山二二三三
石塚近義	印旛郡成田町成田五八
秋葉文夫	同 富里村高野四八四
郡司徳壽	同 遠山村駒井野
以上	四十七名

一一一 其他の施設

各種團體の接待

成田山に参拜せられた陸海軍部隊・男女青年團・青年學校

愛國婦人會・國防婦人會・各學校生徒等の團體が、本館に休憩された都度に、何れも湯茶を饗し、パンフレット等を配布して之が接待に努めた。

建 國 祭

昭和十三年二月十一日成田山堂庭に於て舉行せられた、成田町各種團體主催の建國祭に、新更學院生徒全部合同参加し

一三三 會 議

會 名	月 日	場 所	會 議 事 項
第五回 評議員會	昭和十二年 六月三日	新更會 講 堂	一、事務報告ノ件 二、會則改訂ノ件 三、會長・理事改選ノ件
理事會 同 前	弘誓寮	一、夏季大學講師ノ件	
第八回 支部長會議	昭和十三年 一月廿九日	弘誓寮	一、事務報告ノ件 二、一千年祭奉仕事業 三、新更學院生徒募集 四、一千年祭期間中講習會講演會中止ノ件

た。此の日の参加人員は總計四千名であつた。

灌 佛 會

昭和十二年四月八日舉行の灌佛會には、各種團體・各學校生徒、成田町民と共に、新更學院職員生徒も之に参加した。此の日の参加人員は總計八百名であつた。

第四 經 費

昭和十二年度決算額左の通り。

二八、八七八・四八

昭和十三年十一月十日印刷
昭和十三年十一月十五日發行

【非 賣 品】

編輯
行 人 兼

淺 井 照 次
千葉縣印旛郡成田町成田百九十三番地

印 刷 人

大 友 惟 誠
千葉縣印旛郡成田町成田四〇二番地

印 刷 所

成田學園印刷部
千葉縣印旛郡成田町成田四〇二番地

發 行 所 成 田 山 新 勝 寺



愛國婦人會・國防婦人會・各學校生徒等の團體が、本館に休憩された都度に、何れも湯茶を盃し、パンフレット等を配布して之が接待に努めた。

建 國 祭

昭和十三年二月十一日成田山堂庭に於て舉行せられた、成田町各種團體主催の建國祭に、新更學院生徒全部合同參加し

一三 會 議

會 名	月 日	場 所	會 議 事 項
第五回 評議員會	昭和十二年 六月三日	新更會 講 堂	一、事務報告ノ件 一、會則改訂ノ件 一、會長・理事改選ノ件
理事會 同 前		弘誓寮	一、夏季大學講師ノ件
第八回 支部長會議	昭和十三年 一月廿九日	弘誓寮	一、事務報告ノ件 一、一千年奉仕事業ノ件 一、新更學院生徒募集ノ件 一、一千年祭期間中講習會講演會中止ノ件

第四 經 費

昭和十二年度決算額左の通り。

二八、八七八・四八

た。此の日の參加人員は總計四千名であつた。

灌 佛 會

昭和十二年四月八日舉行の灌佛會には、各種團體・各學校生徒、成田町民と共に、新更學院職員生徒も之に參加した。此の日の參加人員は總計八百名であつた。

昭和十三年十一月十日印刷
昭和十三年十一月十五日發行

【非 賣 品】

編輯
行 兼
人

淺 井 照 次
千葉縣印旛郡成田町成田百九十三番地

印 刷 人

大 友 惟 誠
千葉縣印旛郡成田町成田四〇二番地

印 刷 所

成田學園印刷部
千葉縣印旛郡成田町成田四〇二番地

發 行 所 成 田 山 新 勝 寺

2582

101

258.2
101

終